

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“許せない東労組の人権蹂躪・三鷹電車区事件!”

「三鷹電車区で何があったのか!」

JR連合は今、シリーズ「検証・浦和電車区事件の真実」をホームページ上で展開しているが、その1年前に浦和電車区よりもひどい東労組による人権蹂躪があった。その被害者・佐藤久雄さんの当時の日記から再現し、すべてのJR東日本社員の皆さんに事実を訴えたい。それは、規律ある職場秩序を確保し、社員がお互いに信頼し合い、安心して働ける職場を築くためである。

第25回(最終回) 三鷹電車区事件の背景 当時の労働組合組織の現状

本件事件が起きた平成11年9月現在において、労働組合加入有資格者数は7万3643名であり、東労組に約5万4792名、国労に約1万4399名、東日本鉄産労に2765名、グリーンユニオンに335名が加入していた。労働組合の連合体としては、JR連合とJR総連とがあり、平成11年当時は、東日本鉄産労とグリーンユニオンはJR連合に、東労組はJR総連に加盟していた。東労組は「一企業一組合」を目指すとして、「国労解体」、「鉄産労解体・一掃」など他労組の解体を運動方針として掲げ、他労組組合員に対して、陰に陽に様々な圧迫を加えるとともに、会社をして不当な処遇、取扱いをさせることなどによって、他労組からの脱退を働きかけてきた。

他方、東労組については、かねてから、警察等から反社会的な過激派集団であるとされている「革マル派」との密接な関係が指摘されていた。そして、平成11年1月に、公安調査庁は、東労組について、「革マル派労働者多数が組合執行部役員に就任するなど、東労組への革マル派の浸透が一段と進んでいる。」とする報告を発表した。この発表を契機に、JR連合、東日本鉄産労、グリーンユニオンは、東労組と革マル派の関係を指摘して職場の民主化等を訴え、その教宣活動を強化した。東労組は、これに強く反発し、「鉄産労解体」、「ブラックユニオン」などと唱え、職場での他労組との「平和共存否定」を打ち出した。そして、東日本鉄産労やグリーンユニオンなどに対して集団的嫌がらせ行動を行ったり、他労組組合員を職場で孤立化させようとして、会社に対して、会社の主導により各職場ごとに存在していた従業員親睦会を解散させたりしてきた。

会社と東労組との関係

会社は、東労組を公然と「基軸組合」などと称して、同労組とのみ緊密な関係を維持し、他の労働組合やその組合員を差別し、東労組と一体となって他労組の組織破壊ないし弱体化を企ててきた。会社は、東労組の大会だけに、継続的に、社長その他の幹部を出席させ、出席した社長らは来賓として挨拶してきた。また、広報誌に東労組との関係のいっそうの緊密化を訴える内容の被告会社社長の「年頭あいさつ」を掲載した。さらに、平成5年6月の東労組大会において、「当社の労使関係をあれこれ批判する人たちがいます。私たちは労使協調のもとに安定した健全な労使関係を構築し、JR東日本の力強い発展を実現することによって、身をもってこれらの批判を粉碎していきたいと思う。」、これが順調な経営を支えた最も大きな要因の一つであるわけであります。」、「この6年間、松崎委員長をはじめ、JR東労組の皆様のおかげで心から厚く御礼を申し上げます。松田社長を中心とする新体制に対しまして、労使協調のもとに力強いご支援をいただくことをお願い申し上げます。」などと挨拶した。このように本件事件当時の労使関係は滅茶苦茶だった。三鷹電車区事件はそのような背景で起きた事件である。